

# ～美術館で「世界初」を出会う～

みなさんは、今までにどんな「世界初」に出会いましたか？  
青森県立美術館に「世界初」があると聞き付け、出掛けた時の話です。  
昨年7月に開館したばかりの美術館は、三内丸山遺跡の隣に位置し、  
土の中に埋もれるような構造や白い壁がとても印象的な建物です。  
美術館に着くと、入場口には私と同様にその「世界初」を観ようと  
訪れたであろう人々が、長い行列を作っていました。

中に入り、メインホールに向かいますと  
そこには壁一面に縦9メートル、  
横15メートルもの巨大な絵が！  
しかも前後左右に4枚も張り付けられています。  
これは、1942年に画家シャガールが手がけた、  
「アレコ」というバレエの舞台背景画で、  
シャガールの作品としては日本で最も大きいもの。

「アレコ全4枚同時展示」というのが「世界初！」なのです。  
そのうちの3枚は、なんと青森県が10年以上も前に  
買い取っていたのだそうで、そのことにも驚かされました。  
そして今回、残りの1枚をアメリカの美術館からお借りして

「世界初の全4枚同時展示」が実現したということでした。  
普段あまり芸術に触れる機会のない私、感想は？と尋ねられても  
上手く表現できないのですが、まさに言葉が出ないほどの迫力に圧倒され、美術館を後にしました。

この開館記念シャガール展は期間中19万人が来場、残念ながらすでに終了し、借りていた1枚は  
アメリカの美術館に返却されてしまいました。しかし、残りの3枚はいつでもドーンと構えて待って  
いてくれますので、皆さんも青森県立美術館へ足を運んでこの迫力を体感してみてはいかがですか。

(沢口)

## ○日本三駒(八幡馬)○

八幡馬は、青森県八戸市を中心とする南部地方に、古くからある郷土玩具のひとつです。

昔から「馬の名産地」と言われた東北地方に伝わる馬の形をした郷土玩具のなかで、福島の「三春駒」、仙台の「木下駒」、そして八戸の「八幡馬」は、日本三駒と呼ばれているんですよ。

八幡馬の元祖は、約700年ぐらい前の木彫りの馬が元祖といわれています。

約八百年間、八戸地方を治めた南部家の鎮守櫛引八幡宮に奉納され、そして、年に1度のお祭りで参詣者のお土産として売られるようになりました。

仲良く並んでいる親子の馬にあやかり、子供や家族の幸せを願って買っていく人がたくさんいたそうですよ。

当初は、木彫りの馬に千代紙をはり、鈴や手綱を描いただけの素朴なものでした。

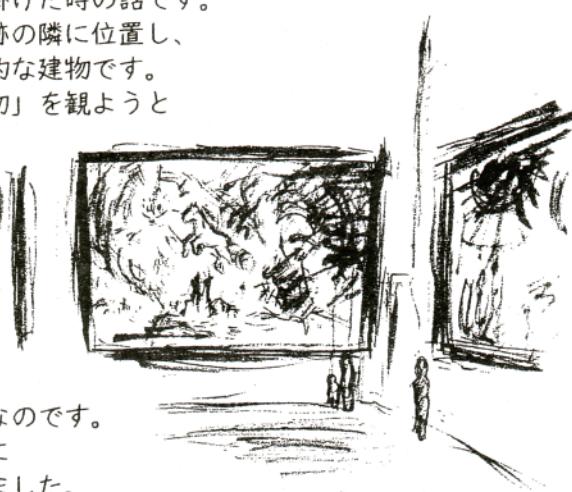


現在は、木彫りの馬に、八戸名産の食用菊(阿房宮)・八戸名所・蕪島のうみねこ・家紋などを絵付け・色付けし、華やかに仕上げます。我が家でも、ちょっと大きめの八幡馬と子どもたちが体験学習で絵付けした小さな八幡馬を飾っていますよ。

(橋本)

.....《お客様のお声をお聞かせください》.....  
この紙面や八戸情報に対するお便りの他、「〇〇〇おいしかったよ。」「こんな食べ方が美味しい」といった商品に対するお便りなど、なんでも結構です。お寄せいただいたお客様の喜びの声、ご意見を元に、商品やサービスの向上に反映させていきたいと思います。

\* 今後、味の加久の屋からの情報がご不要という方は、お手数でも、同封の返信用封筒にお客様のご住所、お名前の部分をお入れになり、ご返送ください。



第18号  
平成19年2月

## 通年カタログ お届けします！

このたび、新しい通年用のカタログができました！

このカタログには、「いちご煮」を始めとする缶詰商品、お手軽なレトルトパウチ、新鮮な素材活きた冷凍食品、また贈り物として喜ばれるギフト商品をすべて集めて、お求めやすいよう一枚にまとめております。

「味の加久の屋 通年カタログ」を皆様のおそばに置いていただき、ご用途にあわせ、おもてなしやお土産品、御祝・御礼など心からの贈り物として、あるいは、いろいろな思い出としてご利用いただきたいと思っております。

今なら「2月15日はいちご煮の日」キャンペーン商品と一緒にお届けの場合、送料無料になりますので、この機会に是非お試しください。

(野田)



イラスト  
(東)